

令和4(2022)年度兵庫大学・兵庫大学短期大学部

入試問題に係る出題の傾向と対策

【対象試験区分】

マッチング入試(前期・中期・後期)

公募制入試(前期・中期・後期)

一般入試(前期・中期・後期)

英語 P1～2

国語 P3

数学 P4～5

生物 P6

化学 P6

記述式総合問題 P7～8

ありがとうの
プロフェッショナルへ。



兵庫大学
HYOGO University

令和4(2022)年度入試問題 傾向と対策(英語)

出題形式	試験区分	①マッチング入試(前期・中期・後期)【基礎学力型】、 公募制入試(前期・中期・後期) ②一般入試(前期※・中期)※前期はB・C日程のみ
	試験範囲	①「コミュニケーション英語Ⅰ」「英語表現Ⅰ」 ②「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」
	問題数(概数)	40問

出題内容	大問1	文脈類推型語彙問題(10問程度)
	概要	20語～30語程度のダイアログもしくは英文を読み、文脈に最も適切な単語を選択する。
対策	<p>選択肢の語句は意味を考えなければどれも形的に当てはめることができるので、問題となっている英文全体を読み、前後の文脈から最も適切と思われる語句を推察する力を養っておくこと。日頃から英文を読むときに未知の単語を最初から辞書で調べることをせず、文脈からその語の意味を推察する練習をするとよい。</p>	

出題内容	大問2	文法・語法・熟語(イディオム)に関する空所補充問題(10問程度)
	概要	時制、前置詞、関係詞などの文法項目、動詞の使い方などを含む語法、連語及び熟語(イディオム)の知識を空所補充の形式で適切な語句を選択する。
対策	<p>マッチング入試及び公募制入試はコミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰ、一般入試はコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ及び英語表現Ⅰの範囲から、基本的な文法項目、動詞の語法、日常よく使われる熟語(イディオム)及び連語に慣れ親しんでおくこと。</p>	

出題内容	大問3	読解問題(5問程度)
	概要	500語～700語程度の文化・社会をテーマとした英文を読み、各段落の要点、詳細及び論理的展開について適切な選択肢を選ぶ。
対策	<p>導入・本論・結論の文章構成を意識して読み、各段落のトピック及びそれを支持する詳細を把握する練習を通して文章の論理的な展開をつかむことに慣れ親しんでおくこと。</p>	

出題内容	大問 4	慣用表現に関する選択問題（5 問程度）
	概要	ダイアログを読み、場面に適した慣用表現（会話表現）を選択する。
対策	マッチング入試及び公募制入試はコミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰ、一般入試はコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ及び英語表現Ⅰの範囲から、会話に頻出する慣用表現に慣れ親しんでおくこと。	

出題内容	大問 5	空所補充型英作文整序問題（10 問程度）
	概要	和文を読み、空所を補うのに適切な語句を選択して英文を完成させる。
対策	大問 2 で述べた対策に加え、特に構文（例えば、強調構文、倒置構文など）の使い方に慣れ親しんでおくこと。	

令和4（2022）年度入試問題 傾向と対策（国語）

出題形式	試験区分	マッチング入試（前期・中期・後期）【基礎学力型】、 公募制入試（前期・中期・後期）、 一般入試（前期 ※・中期・後期）※前期はB・C日程のみ
	試験範囲	「国語総合（古文・漢文を除く）」
	問題数 （概数）	30問

出題内容	大問1	漢字問題（7問）
	概要	短文中の傍線を付したカタカナに当てはまる、適切な漢字を選択する。
対策	すべての常用漢字を習得しておくこと。日本漢字能力検定協会が行っている「漢字検定」2級レベルの問題集などを用い、「書き取り」「読み」「同音・同訓異字」の問題を中心に練習するとよい。「漢字検定」の受検を視野に入れての学習も効果的である。	

出題内容	大問2	読解問題（10問程度）
	概要	2000字～3000字程度の長さの論理的文章を読み、文中の語句の意味や用法、各段落の内容、文章の主旨などについての設問に対する、適切な答えを選択する。
対策	日ごろから論理的な文章に親しんでおくこと。文章を繰り返し読むことで、文章の内容を把握する力がつき、論理展開も見えやすくなる。難しい語句はすぐに調べて疑問を残さないように読みすすめれば、語句についての知識も深められる。新聞をじっくりと読むのも手近な対策として有効である。できれば、記事を書写してみるとよい。	

出題内容	大問3	読解問題（10問程度）
	概要	2000字～3000字程度の長さの論理的文章を読み、文中の語句の意味や用法、各段落の内容、文章の主旨などについての設問に対する、適切な答えを選択する。
対策	「大問2」の対策に準ずるが、語句の用法についての設問のひとつとして、文の主語・述語、助詞・助動詞の用法といったことを問う場合もある。「大問2」もこうした問いを含むことがあるため、上記の対策に加えて文法の知識なども整理しておく必要がある。口語文法を中心とする中学校用の問題集などで復習するのもよいだろう。	

令和 4 (2022) 年度入試問題 傾向と対策 (数学)

出題形式	試験区分	マッチング入試 (前期・中期・後期) 【基礎学力型】、 公募制入試 (前期・中期・後期)、 一般入試 (前期 ※・中期) ※前期は B・C 日程のみ
	試験範囲	「数学 I」「数学 A」
	問題数 (概数)	15 問

出題内容	数と式
	複数の分野からの出題、空所補充・選択問題
対策	<p>単元全体から広く出題されるので、苦手な分野がないように、まずは教科書の内容を正しく理解することが大切。(すべての問題に共通)</p> <p>高度な知識や計算能力を必要とする問題は出題されない。基本的・典型的な問題を中心に出題されるが、基本事項を浅く理解するだけでは解けないような思考力を要する問題も出題される。教科書の練習問題、章末問題、発展問題をきちんと解いて応用力を身につけておこう。(すべての問題に共通)</p> <p>因数分解は出題率が高いので、様々なパターンの問題を解いておこう。</p>

出題内容	集合と命題
	集合、命題の分野からの出題、空所補充・選択問題
対策	用語や概念に関する正確な知識を身につけておくことが大切。

出題内容	図形と計量
	関連する小問集合、空所補充・選択問題
対策	<p>基本的な定理については、応用問題が解けるところまで理解を深めておこう。</p> <p>小問を解いていくことによって、最終的な結果に誘導するような意図で作成された問題がある。その場合、誘導の意図をしっかりと考えることで解ききることができる。</p>

出題内容	2 次関数
	関連する小問集合、空所補充・選択問題
対策	2 次関数の式からグラフを描けることが基本。さらに、2 次関数の最大最小、グラフの移動、2 次関数の決定、直線との共有点の問題などが出題されるので、繰り返し練習しておこう。

出題内容	データの分析
	関連する小問集合、空所補充・選択問題
対策	定義と計算方法を確実に理解しておこう。グラフの読み取りについての問題も練習しておこう。

出題内容	場合の数・確率
	関連する小問集合、空所補充・選択問題
対策	問題文を読み、その状況を正しくとらえる読解力が求められる。また、場合分けが必要な問題も出題され、場合分けを行うためには、筋道を立てて物事を考えることが必要になる。日頃から暗記に頼ることなく、納得できるまで考えて理解する姿勢を保つことが必要である。

出題内容	図形の性質
	関連する小問集合、空所補充・選択問題
対策	角の二等分線の性質、方べきの定理、メネラウスの定理などを使った平面図形についての計量問題が偏りなく出題される。定理が応用できるようになるまで練習問題を繰り返し解いておこう。

出題内容	整数の性質
	関連する小問集合、空所補充・選択問題
対策	約数・倍数の問題、1次不定方程式の整数解などに関する問題が出題される。出題されるのは基本的・典型的な問題であるが、発想力やセンスを必要とする分野であるため、典型問題を重点的に解いておくとよい。

令和4（2022）年度入試問題 傾向と対策（生物）

出題形式	試験区分	①マッチング入試（前期・中期）【基礎学力型】、公募制入試（前期・中期）、 ②一般入試（前期 ※）※前期はB・C日程のみ
	試験範囲	①「生物基礎」 ②「生物基礎」、「生物（生態と環境、生物の進化と系統を除く）」
	問題数（概数）	40問程度（大問4問）

(1) 内容概要

「生物基礎」については、生物と遺伝子（生物の特徴・遺伝子とそのはたらき）・生物の体内環境の維持（生物の体内環境）・生物の多様性と生態系

また、「生物」については、生命現象と物質（細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現）・生殖と発生・生物の環境応答（動物の反応と行動、植物の環境応答）の各領域より、空所補充・選択問題として出題する。

(2) 対策

・教科書の内容の基礎・基本を十分に理解しておく。

・表や図を読み解く力を身につけておく。

以上のことを念頭に、授業ノートの復習を行うとともに問題集などで実践力をつけておこう。

令和4（2022）年度入試問題 傾向と対策（化学）

出題形式	試験区分	一般入試（前期 ※）※前期はB・C日程のみ
	試験範囲	「化学基礎」
	問題数（概数）	40問（大問2問）

(1) 内容概要

①化学基礎の物質の構成、物質の構成粒子、化学結合等に関する空所補充・選択問題を出題する。

[出題内容詳細]

純物質と混合物、物質とその成分（化合物・単体・元素・同素体・炎色反応）、物質の熱運動と三態、原子の構造（電荷・質量・原子番号・同位体）、原子の電子配置、元素の周期表、イオン結合・金属結合・共有結合、電気陰性度と分子の極性

②化学基礎の物質質量と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応等に関する空所補充・選択問題を出題する。

[出題内容詳細]

原子量・分子量・物質質量、化学反応式と量的関係、溶液の濃度と個体の溶解度、酸と塩基、水素イオン濃度とpH、中和反応と塩、酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、電池

(2) 対策

化学の基礎である原子の構造、周期律表から物質質量、化学反応式、酸塩基、酸化還元、電池までの範囲を教科書を中心にして学習しておこう。全ての分野から偏りなく基本的な問題が出題されるので教科書を中心に授業ノートを整理しながら学習すればよい。教科書や問題集の例題を繰り返し復習して、基本的な問題が十分に解けるようにしておこう。

令和4(2022)年度入試から、一般入試(前期A日程)において、知識・技能だけでなく読解力、論理的思考力・表現力を測るための記述式総合問題を導入します。

大学に入学すると文章を読んで要約したり、自分の意見を書く授業や課題が多くなります。この記述式総合問題では、その際に必要となる文章を理解する力を測定します。

例題は以下の通りです。ぜひチャレンジしてください。

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あなたの今までの人生を思い出してください。

良いことも、辛い時もそれぞれあったことがわかりますが、辛い時のことがよく思い出されませんか？人は良いことよりも大変だったことをより記憶に留めておく傾向があるようです。

“どうして自分だけ、こんな運命を強いられているのだろう”と、絶望させられる局面もあったかもしれません。それがケガや病気なら、素直に受け止めて治療など対処することが先決です。ただ、人間関係が上手くいかないときの辛さは、たいていの場合、“自分の視点で、自分しか見えていない”場合が多いはずなのです。“自分のことしか……”まではいなくても、“自分が優先”“自分がかわいい”という意識をもとにした発言や行動になっているはずなのです。

その意識が自分に辛さを与えている相手に対して、“この相手は自分を傷つけている”という標識を貼り付け、そして、その意識にある時はこの標識を当事者以外の人にも貼り付けてしまう傾向があるらしいのです。当事者以外の人も、自分を傷つける対象としてみてしまい、苦しみが倍増してしまうのです。

この負の連鎖から逃れるためには、この状況を客観視し“自分が優先”“自分がかわいい”という立ち位置を手放し、自分も他人の一人として俯瞰する第三者の立場として見ると気持ちが楽になります。この時は自分も他人も全て他人ですから、自分のためというより第三者の立場として、この人々が何で苦しんでいて、どうすると解決するのだろうか？ と考えることができます。こうすることで、自分をも助けることができる発想を手に入れることができるかも知れないのです。これが他利の心なのでしょう。

このように、誰かとコミュニケーションを採るときも、意識と無意識、自律神経を考慮し、自分よりも“相手を尊重する”という“他利”のスイッチに切り替えられるかどうかが鍵となります。

もっとも、あなたが“他利”スイッチの切り替えができていなかったとしても、反省しすぎる必要はありません。おそらく、全体の9割以上の人々は“他利”で生きようとする意思があるはずなのです。あっても、どのような行動が確実に“他利”になるのか、わからずにいるのです。

もちろん、学校教育では“他人の気持ちを考えよう”と教えています。

特に日本では“自己主張は抑えて、他人に合わせる”ということを家庭でも学校でも子どもたちに指導がちです。ただし、“他人に合わせる”ことが、必ずしも他利に値するとは限りません。

他利とはまず、どんな相手に対しても尊敬の気持ちを忘れないことです。どんな人に対しても、まずは“尊重して接する”ことが、「*感謝経済」の世界では特に大切となります。

誰もが、自己承認欲求や自尊心を持っています。つまりそれは、“自分が自分のままで、他人から尊重されている”という実感を持ちたいとの基本的な欲望です。

マズローの欲求5段階説によれば、自己承認欲求は4段階目に位置しています。1段階目の“食欲”“性欲”“睡眠欲”といった最低限度の生理的欲求、2段階目の生命や身体の危機を避けようとする安全欲求、さらに何らかのコミュニティに所属したいと願う3段階目の社会的欲求が満たされたとき、それらが従属して初めて、次に人々は自己承認欲求を満たそうとするとされています。

世間には、自分の自己承認欲求を満たすために、まるで他人を利用するような言動をしている人々も少なくありません。誰かをさげすんで、相対的に自分の立場を上に乗せようとしたり、自分の褒め言葉を他人に言わせたりするなどです。

しかし、そのような態度をとっていると人間関係は長続きしません。尊敬を感じない相手からは、よほど別の大きなメリットがない限り、人は自然と離れていくからです。

【出典】兼元謙任『感謝経済 他人の成功を支援する』（創藝社）

*感謝経済：他人の成功を支援する人のための経済ネットワーク。

問1 本文をよく読み、筆者は、他利の心を手に入れるにはどのような心構えが必要であると述べているか、100字以内で答えなさい。

問2 これまでのあなたの生活を振り返って、「他利の心」というテーマで、400字以内であなたの考えを述べなさい。

【解答例】

問1

「自分がかわいい」「自分が優先」という立場から離れることが必要である。そうすることで、自分も他人の一人として第三者の視点で全体を俯瞰することができるようになり、「他利」の心を手に入れることができる。

問2

小学校5年の頃、私の担任の先生はよく生徒を褒めた。それも、ほんの小さな心の動きも見逃さずに、瞬時に褒めるのである。「姿勢がいいね」「指がピンと伸びているね」「困難に立ち向かう姿が立派だよ」など、次々に自分の気が付かないところまで褒めまくった。褒められたときはうれしかった。だから生徒たちも先生の真似をして、友達のことを褒めるようになった。しだいに、相手の立場を考えて発言するようになり、不適切な言動は減っていった。気づけば、クラスは本当に楽しく、勉強しやすい場所になっていた。先生とはたった一年間の師弟関係であったが、自分に自信がもて、自分らしさに気づけるようになった。また、どんな人でも自然と相手を受け容れられるようになった。振り返れば、この一年間の経験は、褒め合い、相手を尊重することの大切さを心から理解できた貴重なものだったと思う。「他利の心」を大切に、今後の人間関係でも活かしていきたい。